

「JP分析売買条件作成機能の応用」

JPチャートには、簡単に売買サインを作ってくれる機能、「売買条件作成機能」があります。

本来の使い方は、チャートを見て、ここで買い(売り)サインが出たらいいな。と思う日にバーを表示させ、「売買条件作成」を実行します。

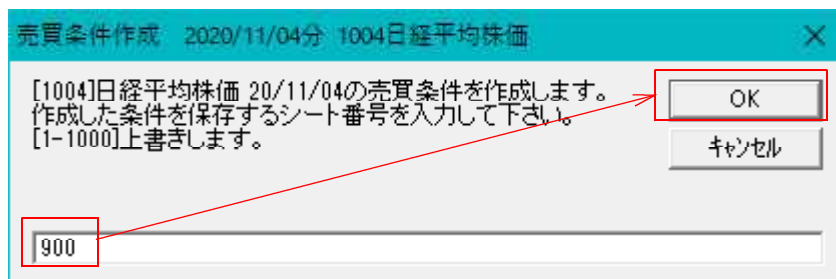
そしてそのサインが他の日でも、いいタイミングで表示された場合、将来の点灯に備えます。

テクニカル分析の基本は、過去は繰り返す。という考え方なので次、点灯したら出動するという事です。

例えば、11/4 にバーを表示させ、「条件」－「売買条件作成」をクリック



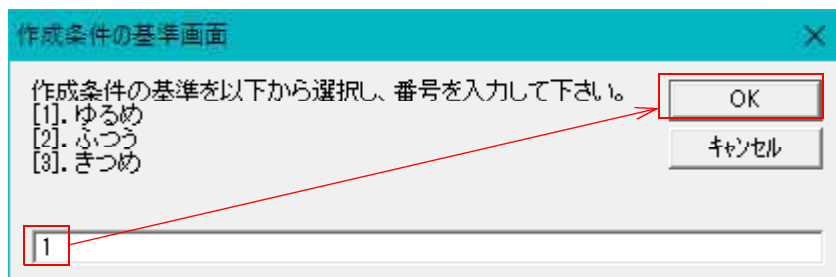
900 番に売買サインを作成 ※使っていないシート番号を入力



買いサインなので「はい」



ゆるめで作成 ※サインが多く点灯したら「ふつう」、「きつめ」でも実行する。



OKをクリック



「条件」 - 「チェック」をクリックし、900番をチェックします。



11/4 以外に、8/11 にも点灯。共に上昇しているので次、点灯したら上ではなかろうかと判断します。



こうした使い方の他に、直近にバーを表示させ売買条件を作成し、過去の点灯ポイントを見て、買いか売りを判断する。という事も出来ます。

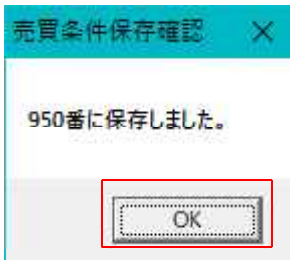
直近に売買サインが点灯していなくて、上か、下かの判断がつかない。

こういった時に、使います。

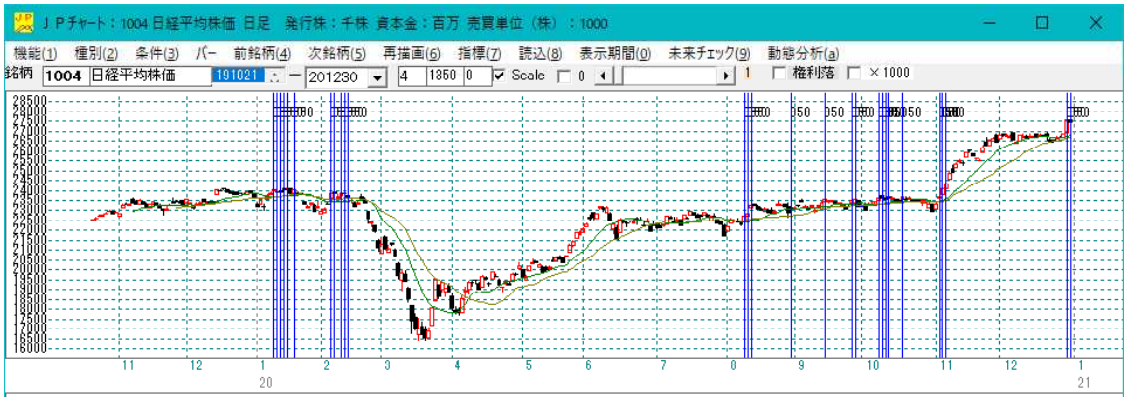
直近に縦バーを表示させ、「条件」－「売買条件作成」をクリック



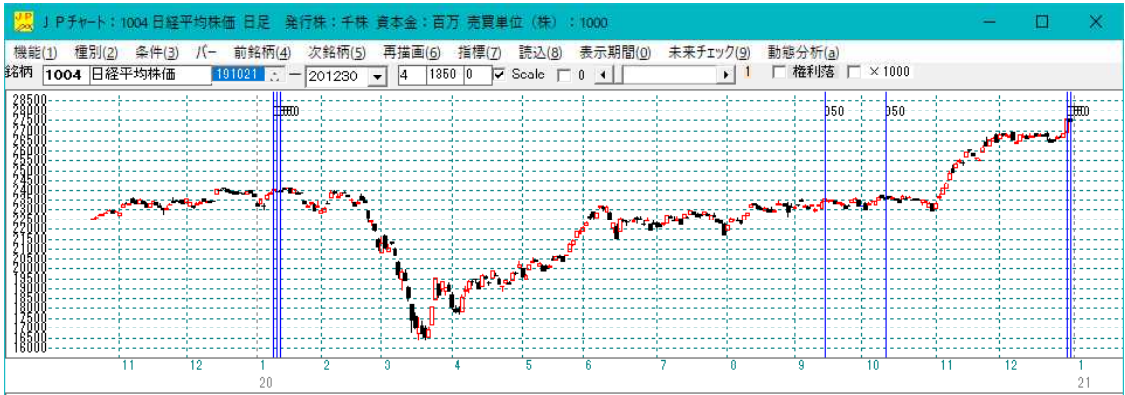
今回は 950 番



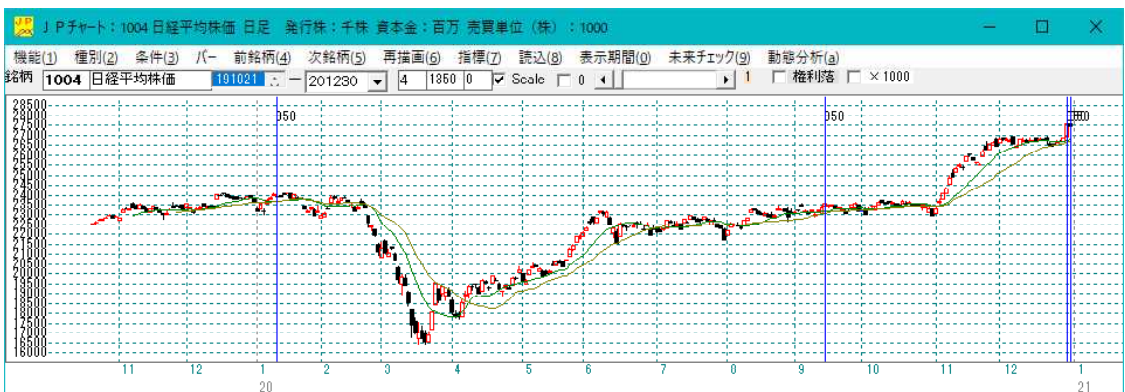
チェックするようになります。



「ふつう」の場合



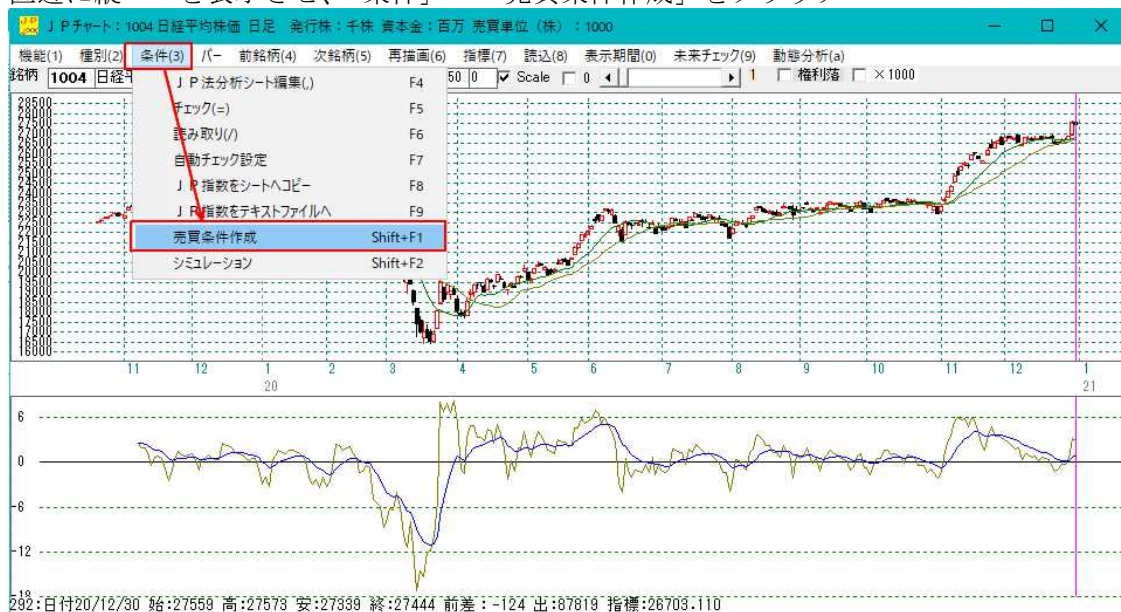
「きつめ」の場合



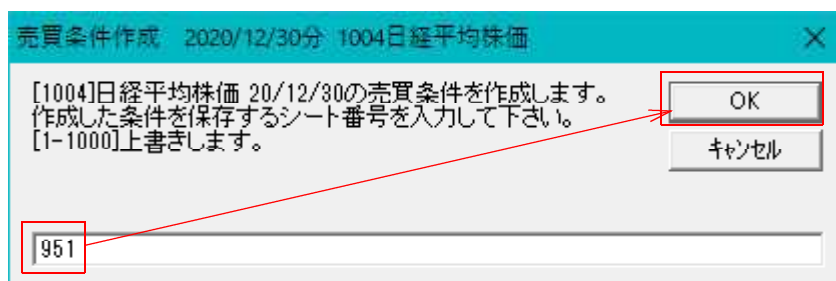
買いサインとして作成しましたが、チャートを見る限りサイン点灯後、過去については、保ち合いといったところでしょうか。

次に「売りの場合」として作成してみます。

直近に縦バーを表示させ、「条件」－「売買条件作成」をクリック



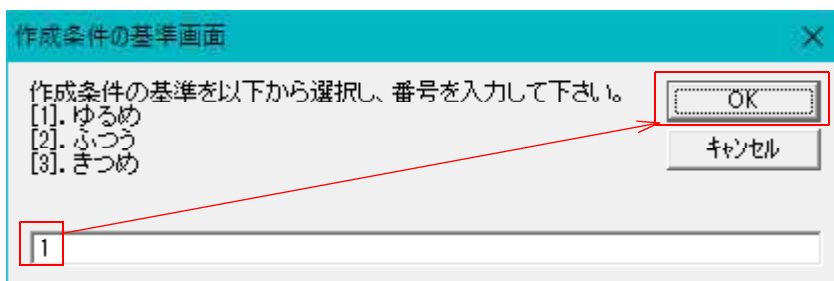
951番を使います。



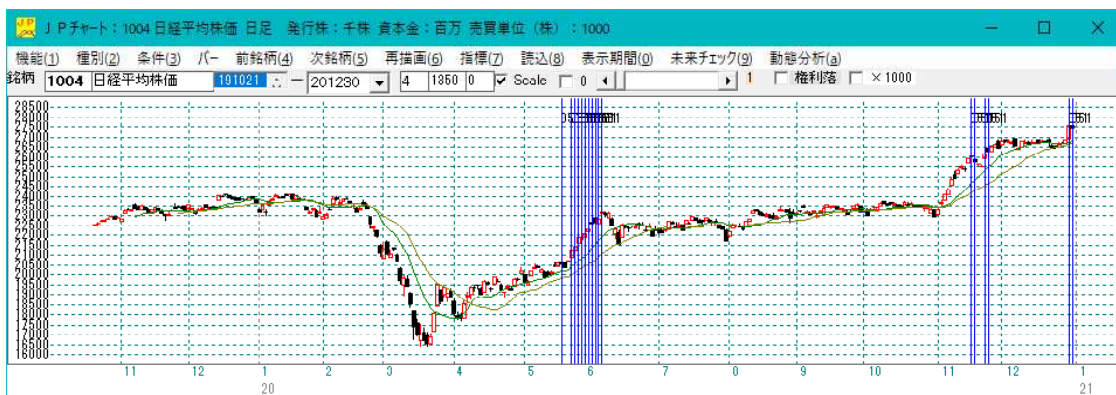
売りなので「いいえ」をクリックします。



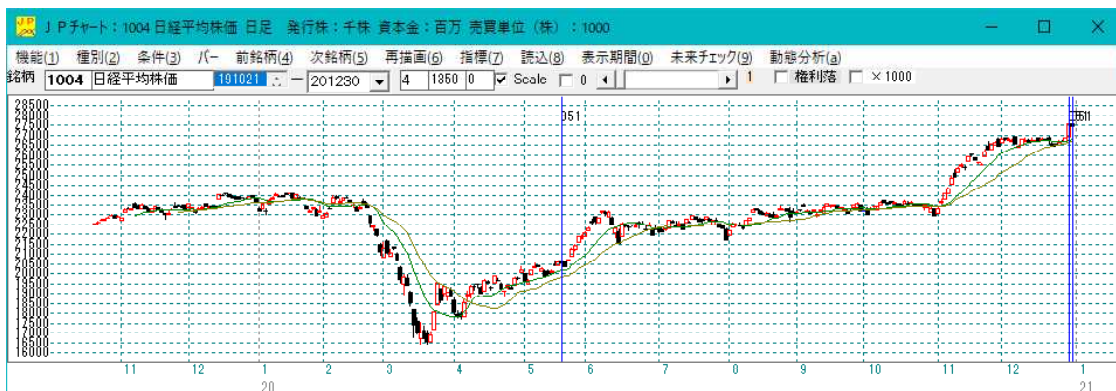
まずは、「ゆるめ」で。



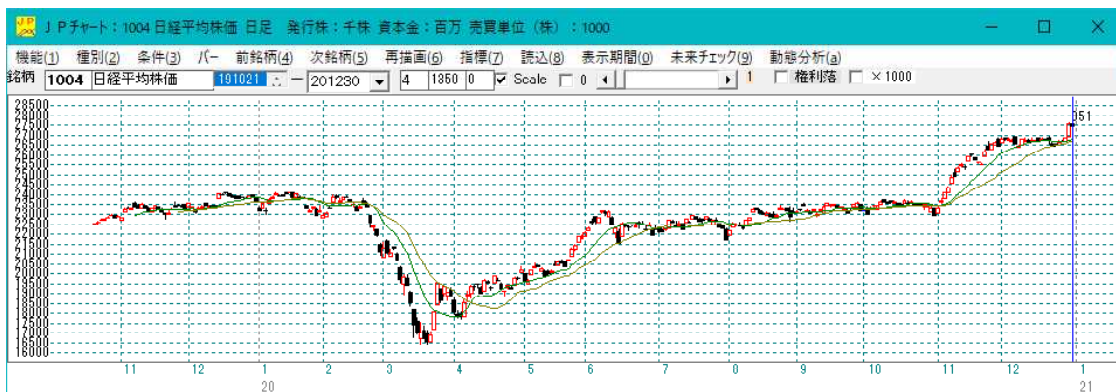
チェックするようになります。



「ふつう」の場合



「きつめ」の場合 ※直近しか点灯しなくなりました。



売りサインとして作成しましたが、チャートを見る限りサイン点灯後、過去については、上昇しています。

「買いの場合」は保ち合い、「売りの場合」は上昇となり、これらの事から直近の判断は、保ち合いまたは上。下がったら買いとなります。

買いサインとして作成したのに、過去は上昇していない。売りサインとして作成したのに過去は下がっておらず、逆に上となっている。

自分が思っていたようにはならない。これがテクニカル分析の限界でもあります。

例えばこういう事です。

通常、移動平均線のゴールデンクロスといえば、買いポイント。デッドクロスは売りポイントです。

しかし、チャート上で当てはめてみると、ゴールデンクロス以降は下げ、デッドクロスは押し目買いポイントとなっていた。という意味です。

ゴールデンクロスで買い、デッドクロスで売りは、間違っているととなります。

チャート上に点灯しているサインが全てですから、売りサインとして作っても、そこから上昇していれば、それは買いサインとなります。

その時の相場次第でサインは逆になる・・・。そういつては身もフタもないですが、これが事実です。

今回の手法は、直近に売買サインが点灯していないけど、ある意味無理矢理サインを作成し、判断しているとも言えます。

そしてちぐはぐな事が起こっていますから、参考程度にとどめた方がいいのかもしれない。

買いサイン作成で、過去の点灯ポイントから上がっている。売りサイン作成で過去の点灯ポイントから下がっている。となっていたら、信頼性があると判断します。

J P 2 0 0 0 ソフトユーザー様は長期データ使えますから、さらに過去を調べてみて下さい。